

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	6
➤ 会議・イベント案内	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	7
➤ 会員募集中	8

巻頭書記

「師走」になりました。「早いですね」と当たり前のように毎年同じ言葉が飛び交います。「早いですね」はお勤めの方にとっては、年度末に向けた忙しさに対する覚悟の言葉。一方では、個人として一年を振り返り、ふとつぶやく言葉。皆さまにとって 2010 年はどんな一年だったでしょうか。JRRN でも、一年の活動を 12 月でまとめ、年次報告として発行する準備をしております。反省もしながら今後のよりよい活動へ向けて成

長していききたいと改めて感じます。

さて本号では、第 6 回 JRRN ミニ講座及び ARRN ラウンドテーブル会議の講演録のご案内、会員寄稿記事から「愛媛県 ボトムアップのチャレンジ 奥池ビオトープ」と「水辺からのメッセージ No.19」をご紹介します。

来年も引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

第 6 回 JRRN ミニ講座「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」 (平成 22 年 9 月 8 日開催) 講演録発行のご案内

平成22年9月8日(水)に開催しました『第5回JRRN河川環境ミニ講座「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」』(講師：徐宗学氏)の講演録が完成しました。

講演では、近年の中国における深刻な水災害の状況と、それに対する水資源管理の概要、洪水や渇水管理、水質対策などのこれまでの取組み、更には今後の中国政府の水資源管理の方向性や考え方などについて詳しくご説明を頂きました。その講演内容や意見交換の様子を発表資料を織り交ぜ、講演録としてまとめました。

会場に来られなかった皆さまにもご一読いただくことでご理解を深めていただくことができると思います。どうぞご活用ください。



※講演録は以下からダウンロードできます。

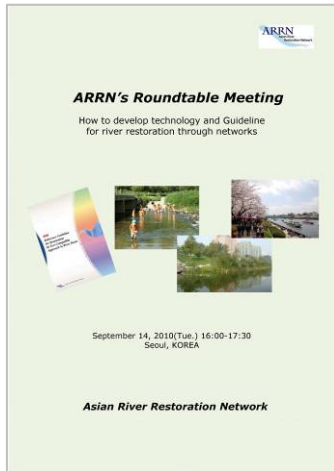
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2444.html>

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

JRRN 活動報告(2)

ARRN ラウンドテーブル会議「ネットワーク活動を通じ、河川技術及びガイドラインをどのように発展させるか」(2010年9月14日開催) 講演録発行のご案内

JRRNニューズレター10月号にてご報告しました
「ARRN ラウンドテーブル会議」(2010年9月14日開催)の講演録(英語版)が完成致しました。



【講演録目次】

- P3-4: はじめに (アジア各国の地形的特徴紹介)
- P5-10: ネットワークの役割 (河川再生ネットワークの果たすべき役割について)
- P10-12: 河川再生ガイドライン (河川再生ガイドラインをどのように発展させるか)

※英語版ダウンロードは以下の URL から
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNroundtableEng.pdf>
※日本語仮訳版ダウンロードは以下の URL から
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNroundtableJap.pdf>

※上記冊子は 12 月中旬からダウンロード可能

本会議では、ネットワークの役割及びアジアの河川再生ガイドラインをどのように構築していくかについて、パネリスト及び会場を交えた議論が行われました。

前半のネットワークの役割に関しては、河川再生に取り組む人々を一つにしてその経験を共有することや、河川再生の目標設定や科学技術に根ざした再生手法に

ついてガイドラインとして開発していくことなどが提案されました。一方で、河川再生の定義を明確にすること、河川再生に取り組む動機づけを示すこと、望ましい河川を評価する指標を築くなど、現時点で明確な答えが示されていないテーマについてネットワーク参加者で確立していく必要性も指摘されました。

後半のガイドライン構築に向けた議論では、現時点で保有する技術や考え方をスタートに、新たな研究成果を足しながら更新していくことの繰り返しにより河川再生活動に適用可能な技術指針が構築されていくことや、また河川再生の意味や定義を整理してガイドラインに含めていくべきといった提案がパネリストや会場より示されました。

ネットワークとして技術や考え方を共有していく際には物理的・文化的・歴史的な相違や多様性の存在を認識した上で更なる理解を深めていくこと、国際交流は相互にメリットがあることを前提に取り組むこと、河川再生は歴史のある時点に戻るのではなく、過去や他地域の取り組みを学びながらその川の推移に相應しい状態を見出すこと等々、今後の河川再生を進める上で多くの示唆に富む成果が得られたと思います。

本会議の成果は、今後の ARRN 及び JRRN の諸活動に反映させてまいります。



会議終了後の記念撮影

(JRRN 事務局 和田彰)

【ARRN ラウンドテーブル会議】

- 日時: 2010年9月14日(火) 16:00~17:30
- 会場: COEX 国際会議場 (韓国ソウル市)
- 主催: アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)、韓国河川再生ネットワーク (KRRN)
- 共催: 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)、中国河川再生ネットワーク (CRRN)
- 司会: 玉井信行氏 (ARRN 会長、IAHR 会長)
BongHee Lee 氏 (KRRN 事務局長)
- パネリスト:
 - ・ Bart Fokkens 氏 (ECRR: ヨーロッパ河川再生センター会長)
 - ・ Dongya Sun 氏 (中国水利水電科学研究院、CRRN 事務局長)
 - ・ 白川直樹氏 (筑波大学、ARRN 技術委員)
 - ・ Sukhwan Jang 氏 (韓国 Daejin 大学、ARRN 技術委員)

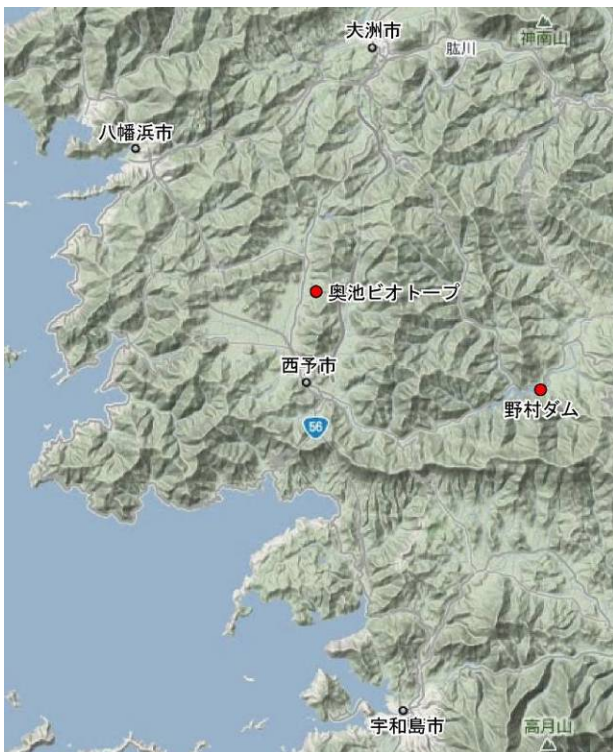
会員寄稿記事(1)

愛媛県 ボトムアップのチャレンジ 奥池ビオトープ

寄稿者：藤原 美紀（鞍瀬塾事務局・JRRN 会員）

（1）第2回南予地区研修会のあらまし

11月2日に「周桑いのちの樹」の専門部会の東予環境グループと鞍瀬塾が主催している多自然川づくり研修会第2回南予地区研修会を、(財)リバーフロント整備センターの研究員をアドバイザーに迎え、西予市の奥池と野村ダムを会場に開催しました。研修会には、行政関係者、NPO、地域住民、コンサル等で19名の方に参加いただきました。（多自然川づくり研修会の主旨については JRRN Newsletter Volume 39（2010年9月）をご覧ください。）



研修箇所位置図

（2）奥池ビオトープと野村ダムの潜在自然植生

①「奥池ビオトープ」について

旧宇和町では、平成13年度(2001年度)から県営経

営体育成基盤整備事業(ほ場整備事業)が永長地区で開始されました。平成15年度(2003年度)に地区内のため池「西池」の設置替え工事が始まることから、この地域で保全活動をしている市民団体の有志が、西池に生育している貴重植物を守って欲しいと、愛媛県と旧宇和町に要望したところ、生態系調査が実施され、多くの貴重種が確認されました。このため、近くにある「奥池」にビオトープを整備し、貴重種を集団移植して保全することとなり、地域住民、市民団体、有識者、関係機関が連携しての官学民一体となった取り組みが行われました。この奥池ビオトープの取り組みが発端となり、近隣の伊方町や八幡浜市でも植物を守るための取り組みが進められています。

②野村ダムの潜在自然植生による法面修復

ダム建設時には、ダム建設による法面の修復に、従来は外来種子の吹き付けによる緑化が主に行われていましたが、この方法は比較的安価ですぐ効果があらわれる反面、持続性がなく景観的にも問題がありました。そこで、野村ダムでは流域に自生している自生力の強い樹木（このような樹木を潜在自然植生といいます）を選んで植栽することにより、将来の管理を容易にするとともに、地域に適合した自然の回復を図りました。（野村ダムのHPより）

（3）実地研修について

まず午前中に、奥池ビオトープに行き、愛媛県農林水産部農地整備課職員より、環境保全の取組としての奥池ビオトープの整備について説明をしていただきました。そのあと、植物の維持管理について当初からかわっている地元の環境マイスターの水本氏より、植物の種類や生態、日常管理の状況、問題点などについて説明をしていただきました。



奥池ビオトープの現地研修

最後に西予市職員から、今年度から西予市が取り組む「田園ロマンの里づくり推進事業」について、説明を受けました。この奥池のある宇和盆地は、近年ツル類やコウノトリが飛来しており、渡り鳥と人が共生できる豊かな生態系を持続し得る農村空間の構築を目指して地域住民と関係機関が連携して取組を進めています。

午後からは、場所を野村ダムに移動し、潜在自然植生について野村ダム管理所職員から説明を受けました。この潜在自然植生を活用した法面の修景緑化は、昭和56年ごろに実施し、およそ30年を経た今は、自然の山と見間違ふほどになっております。参加者のなかには、5年前の2005年5月にも野村ダムに来て潜在植生を見学した人たちもいましたが、その時より樹木が大きくなっていると言っていました。



野村ダムの潜在植生回復箇所の状況

(4) 現地見学を終えて

今回の現地研修では、地域で自然保護活動をしている人たちのボトムアップの取組に考えさせられました。管理者である行政職員は、人事異動や退職などがあり、ずっとひとつのことにに関わり続けることはできません。しかし、多自然川づくりは息の長い時間のかかる取組です。行政から言われて地域住民が協力するのではなく、地域住民の声に行政が協力するという形が時間のかかる取組を進めていくうえでは一番必要だと考えています。ただ、私たちも鞍瀬川で自然保護の取組を続けていますが、鞍瀬川のことしかわかりません。南予地域の水本様たちのように、いろいろな自然保護活動をしている団体が情報交換を行い、互いに助け合うような関係を愛媛県内でつくることができればと思いました。その手助けを河川管理者である行政がしていただければ、公共事業に対する見方も変わってくるのではないのでしょうか。

もうひとつ重要なことは、地域の自然環境の維持管理は地域の人たちが中心になって行うということです。行政職員も家に帰れば、家庭の一員であり、地域の住民です。行政としての取組は終了しても、維持管理はずっと続いていきます。トップダウンではなくボトムアップの取組。そのためには、生涯学習、環境学習が重要です。そして、維持管理を引き継ぐ後継者の育成も欠かせません。今年度開催した6回の研修会を通して、つくづくこの事を考えさせられました。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

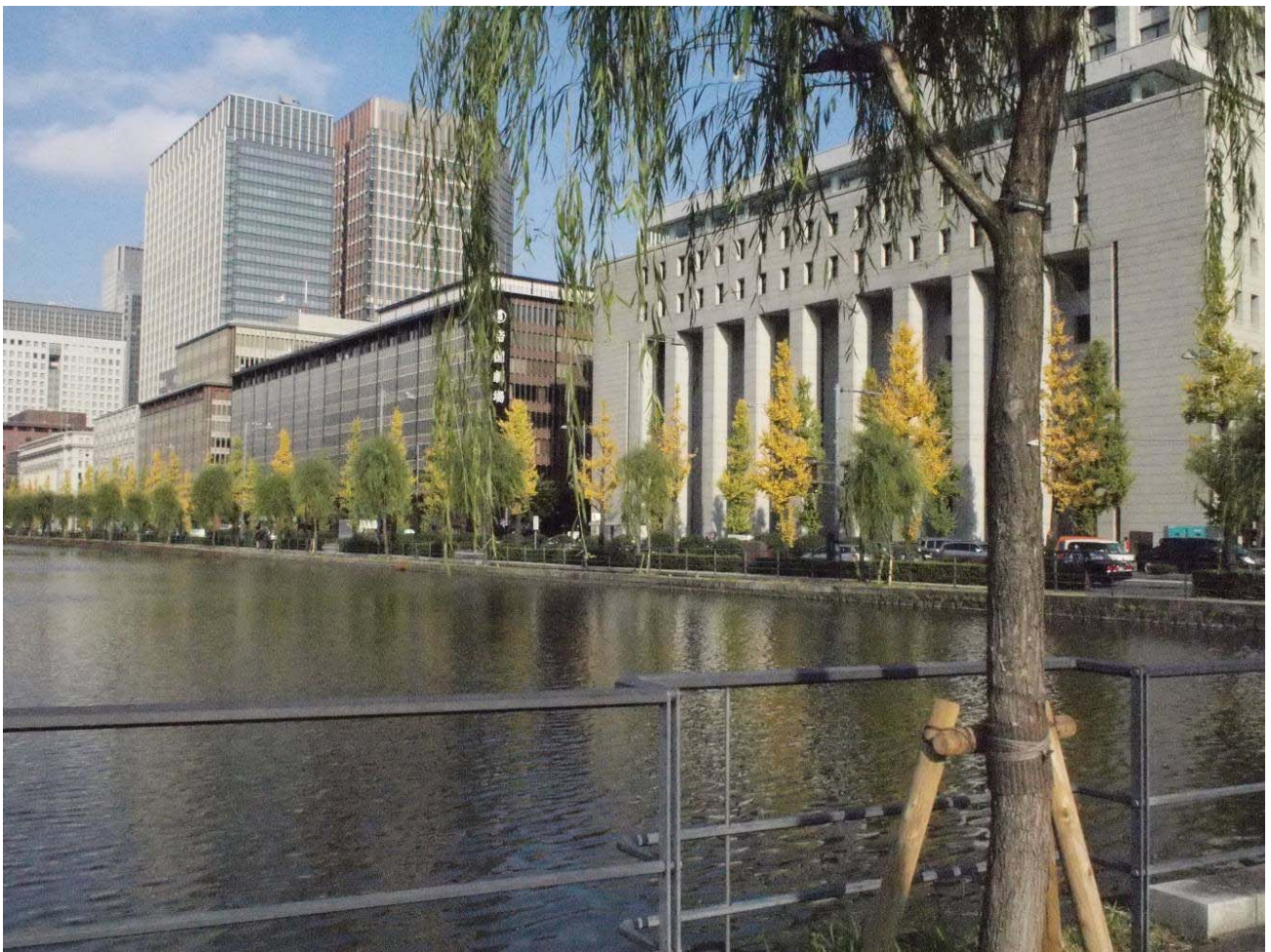
旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

水辺からのメッセージ No.19

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

東京の“美観”は守れているか

高さ31mの統一感：旧都計法の時代に定めた美観地区では今でも品格ある街並みを形成



撮影：2010年11月（千代田区丸の内）

◆日比谷濠に面した堂々たる建築群

1933年全国初の美観地区により31mの建物ラインを設定され、その後規制緩和・高層化によって背後の風景は変わりつつあります。歴史的建築の第一生命館、帝国劇場、東京会館等は当時のファサードを残しています。

◆潤いのある道路景観をつくるために

内濠の水面のよる開放的な景観、歴史的な風景資産をもつパノラマ的景観を、さらに充実したものにするためには、銀杏などの街路樹を強剪定としない配慮が必要です。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

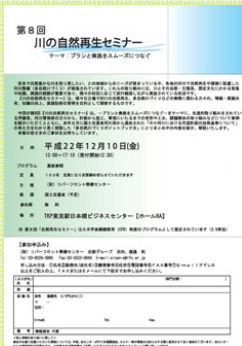
JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2010 年 11 月提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■第 8 回自然再生セミナー (12/10 開催)

『第 8 回自然再生セミナー』(12 月 10 日・TKP 東京駅日本橋ビジネスセンター)に関わる情報を御提供頂きました。

本セミナーでは、「プランと実施をスムーズにつなぐ」をテーマに、学識者や河川管理者の方々から、計画から施工、管理にいたるまでの苦労や工夫、課題解決の取り組みなどについて事例を紹介頂きます。



※詳細は以下参照

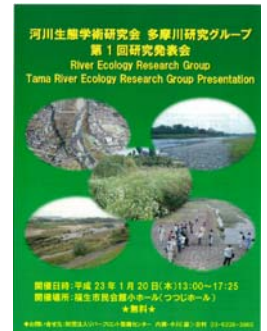
<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2437.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■河川生態学術研究会 多摩川研究グループ 第 1 回研究発表会 (1/20 開催)

『河川生態学術研究会 多摩川研究グループ 第 1 回研究発表会』の情報を御提供頂きました。

多摩川研究グループのこれまでの研究成果や今後の研究計画について説明頂きます。また、市民等からの話題提供やディスカッションを通して、よりよい多摩川を目指して議論を行います。



日時：平成 23 年 1 月 20 日(木) 13:00~17:25

会場：福生市民会館小ホール(つつじホール)

入場無料

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2472.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「経済効果を生み出す環境まちづくり」書籍案内

JRRN 会員より御提供頂いた書籍情報です。JRRN 会員の方々も執筆に関わられています。

本書の特徴は以下のとおりです。

- ◎エコロジーとエコノミーの相乗効果がわかる！
- ◎経済的に自立した循環型まちづくりに役立つ事例・アイデアが満載！
- ◎各地の自治体や企業の取り組みのコンセプトや手法を担当者自身が執筆！
- ◎循環型まちづくり経営に必要な予算や人材の確保、経済効果を一挙公開！
- ◎環境と経済が両立できるまちづくりのアイデアを様々な切り口で紹介！



※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/book/2429.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。詳細は日本河川協会ホームページをご覧ください。

→ http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_index.htm

第 151 回河川文化を語る会 (2010 年 12 月 13 日(月))

講演「北欧の自然と文化:
釣りキチ外交官の見た川と魚と人生模様」

おつか せいいちろう
講師 大塚 清一郎 氏
(エッセイスト・前駐スウェーデン大使)

第 152 回河川文化を語る会 (2011 年 1 月 17 日(月))

講演「川底から理解する河川環境」

かやば りゅういち
講師 萱場 祐一 氏
(独立行政法人土木研究所 自然共生研究センター長)

第 153 回河川文化を語る会 (2011 年 2 月 14 日(月))

講演「地域の水環境研究から発展した
国内外との教育連携」

たかぎ りゅうじ
講師 高木 裕司 氏
(学校法人 静岡理科大学 静岡北高等学校 教諭)

会議・イベント案内（2010 年 12 月以降）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■ 第 8 回 自然再生セミナー

○日時：2010 年 12 月 10 日（金）13:30～17:10

○会場：TKP 東京駅日本橋ビジネスセンター

○主催：（財）リバーフロント整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2435.html>

■ 第 151 回 河川文化を語る会

○日時：2010 年 12 月 13 日（月）18:00～20:00

○会場：シェーンバッハ・サボー 3F

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2369.html>

■ 湧水保全フォーラム全国大会 in ひがしくるめ

○日時：2010 年 12 月 17 日（金）13:00～17:00

○会場：東京都東久留米市 生涯学習センター

○主催：東久留米市 他

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2390.html>

■ 第 152 回 河川文化を語る会

○日時：2011 年 1 月 17 日（月）18:00～20:00

○会場：厚生会館

○主催：（社）日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2448.html>

■ 河川生態学術研究会 多摩川研究グループ

第 1 回研究発表会

○日時：2011 年 1 月 20 日（木）13:00～17:25

○会場：福生市民会館小ホール

○主催：河川生態学術研究会

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0076.pdf>

■ 平成 22 年度 川に学ぶ全国事例発表会

○日時：2011 年 1 月 28 日（金）10:00-17:10

○会場：河川環境管理財団 3 階 第 1・第 2 会議室

○主催：子どもの水辺サポートセンター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2438.html>

■ 第六回 外来魚情報交換会

○日時：2011 年 1 月 29 日（土）～30 日（日）

○会場：草津市立まちづくりセンター

○主催：琵琶湖を戻す会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2436.html>

■ 第 153 回 河川文化を語る会

○日時：2011 年 2 月 14 日（月）18:00～20:00

○会場：厚生会館

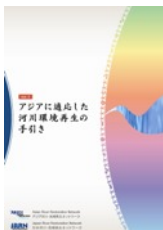
○主催：（社）日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2449.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 （2009.3 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 自然と共生した流域圏・都市の再生

（2010.12 中旬発刊予定）

- ・監修：丹保憲仁
- ・編著：「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワークショップ実行委員会
- ・問い合わせ先：（財）リバーフロント整備センター



第 4 回から第 8 回までの「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワークショップでの講演内容とともに、「流域から都市・地域環境の再生を考える」をテーマとした座談会の議論をまとめたものです。

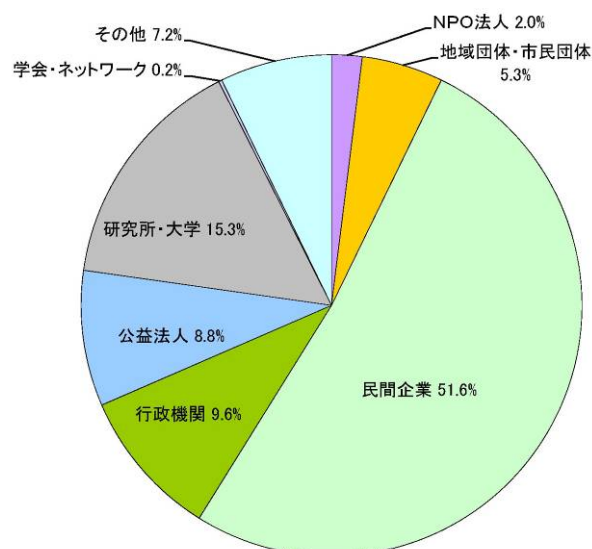
JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 11 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：457 名、団体会員数：22 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテ中央ビル7階
Tel:03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、
(財) リバーフロント整備センターと(株) 建設技術研究所が運営を担っています。